

1人1台端末を利用した家庭との連携

Cooperation with homes using terminals for each person

庄子 寛之
東京都調布市立多摩川小学校

新型コロナウイルス禍で学校行事等が中止になり、保護者が学校に来校する機会が著しく減った。子どもたちを参観する機会がなくなったため、学校で何が行われているのか分かりづらくなった。そこで導入された1人1台端末を使って、家庭との連携を試みた。情報を公開することで学校と家庭が連携して、Society5.0の時代のよりよい学校教育を目指した。

キーワード：家庭との連携 1人1台端末 GIGA スクール構想 Society5.0

1. はじめに

今年度、新型コロナウイルス感染症防止のために、例年通りの行事を行うことができなくなった。そのため、保護者は学校に来校することができず、学校で何が行われているのか分かりづらくなった。これにより、保護者の学校への信頼は薄れているように感じる。

そんな中、情報化の加速度的な進展への対応の遅れや、新型コロナウイルス感染症の流行などから、GIGA スクール構想が大幅に前倒し、本年4月から全国の児童生徒が1人1台端末環境での学びを開始できることとなった。本校でも1月に配布し、様々な試行錯誤を行っている。

この1人1台端末を用いて、学校と家庭をつなぐことができないか考えた。

表1：本校で実施することのできなかつた行事等

1学期保護者会	中止	
日光移動教室	中止	
運動会	内容変更実施	保護者参観なし
学習発表会	展示のみ	保護者参観なし
授業公開	すべて中止	
2学期保護者会	オンラインで実施	
50周年式典	中止（集会のみ）	

2. 1人1台端末の導入にあたって

2.1. 導入の流れ

本学級では、市の1人1台端末実証事例クラスとして、2020年1月から2月まで使用していた。

本格実施は、2021年2月から約1ヶ月半である。全校児童に1人1台端末を配布した。毎日持ち帰り、家

でも使えるようにしている。保管庫などはなく、充電は家で行う。毎授業では、机の中に淹れている。

2.2. 1人1台端末でできること

本校ではipadを使用している。LTE対応で、どこでも学習をすることができる。基本的な機能はすべて使えるが、You Tubeなどの動画は見られないように設定されている。

Gsuiteとベネッセコーポレーションのミライシードが入っており、それらを駆使しながら学習を進めている。

3. 家庭との連携の取り組み

3.1. 家庭の写真撮る

毎日、家での写真を撮ることを宿題としている。カメラ機能を使って家での写真を撮り、朝学校に来るとミライシードのオクリンクを使って共有している。



図1：家庭で撮ってきた写真を黒板に提示

3.2. 紙のドリル宿題の廃止

宿題で日頃使ってきた計算ドリルを廃止し、ミライシードのドリルパークを使用している。やっているかどうかは、教師用の端末から簡単に把握することができる。



図2：ドリルパークを行っている児童

3.3. 音読の自撮り

ビデオ機能やボイスメモ機能を使って、自分の音読を録音させている。毎回チェックすることはしていないが、国語の授業などで、互いの音読の映像を見せ合うなどしている。音読カードは継続実施している。

3.4. 毎日の朝の会報告

ミライシードのムーブノートを使って、毎朝の報告会を行っている。黒板のプロジェクターに投影しながら、どの子がどんな様子なのか、どんなことを昨夜やったのか、今どんなことに興味があるのか紹介し合っている。

3.5. 動画での学級通信

ビデオ機能を使って、私の動画を撮り、最近の学校での様子をクラスの保護者に配信している。撮ったビデオをGsuiteのGoogleclassroomのストリームを使用して配信している。

3.6. 従来の学級通信のデータ送信

従来の学級通信をGsuiteのGoogleclassroomのストリームを使用して配信している。紙ベースでの音読しながら配布している。

3.7. 授業風景の送信

不定期だが、授業の様子をGsuiteのGoogleclassroomのストリームを使用して配信している。

4. 保護者アンケートの実施

使用開始から1ヶ月の3月7日から12日まで1人1台端末のアンケートを行った。アンケート内容は以下の通りである。

令和3年3月7日
6年3組の保護者の皆様
調布市立多摩川小学校
担任 庄子 寛之

1人1台端末の使用についてのアンケート

穏やかな日ざしに、春の訪れを感じる季節となりました。保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

1人1台端末の使用も、1ヶ月が過ぎました。つきましては、アンケートにご協力いただければ幸いです。よろしくお願いたします。

	とても そう思う	やや 思う	どちら でもない	あまり 思わない	全く 思わない
1人1台端末の導入に賛成ですか。	5	4	3	2	1

1人1台端末を用いて、情報公開に努めました。どう思われたか教えてください。

学校での様子を写真に撮る 計算ドリルではなく、ドリルパークを使用する
音読を自分で撮る クラスルームから、学級通信や授業動画を投稿

タブレット端末についての質問やご意見がありましたら、お書き下さい。

ありがとうございました。締め切り 3月12日(金)

図8：保護者に配布したアンケート

問1「1人1台端末の導入に賛成ですか」の問いでは○をつけてもらう評定尺度法を用いた。「とてもそう思う」「だいたいそう思う」「どちらともいえない」「あまり思わない」「まったく思わない」の5段階で行った。

問2「1人1台端末を用いて、情報公開に努めました。どう思われたか教えてください」の問いでは、自由記述式で、感じたことを書いてもらった。

5. 検証結果

38家庭中、21家庭の回答を得た。(回答率55.2%) 問1「1人1台端末の導入に賛成ですか」という問いには「とてもそう思う」「だいたいそう思う」が100%であった。1人1台のタブレット端末を使用することのメリット・デメリット両方が言われ

ているが、本学級の保護者からは、肯定的な回答を得ることができた。

「1人1台端末を用いて、情報公開に努めました、どう思われたか教えて下さい。」という自由記述の問いでは、「様々な情報公開をしていただき、とてもありがたいと感じています。今年はコロナ禍で学校に行く機会はほぼなかったのですが、こうやって公開して下さるおかげで、学校の様子がとてもよく分かりました。」や「クラスルームにて情報共有してもらえたので、とてもよかったです。学校での様子もよく分かりました。」「学級通信を電子化してもらえたおかげで、より見えやすくなりました。うちの子はもっと帰ってきているのだから帰ってきていないのかわからない時があるので。紙ベースでも配ってもらえるのがありがたかったです。」など肯定的な回答が得られた。

なお、21件の回答の中で、使用方法や機器操作に関する疑問や質問はあったが、否定的な回答は見られなかった。

6. 考察

肯定的な意見が聞かれた背景の一つとして、2年間を通した情報発信にあると考える。1人1台端末になる前から、学級通信や道徳ノートなどで情報発信を続けてきた。コロナ禍で様々な行事ができない中、オンラインで過疎地や海外、様々な職業の方とつながりできなかった。行事が行えない中でも、何かできることはないか学校が考えているという姿勢が伝わっていたのだと考える。

子どもたち同士の関係にも変化が見られた。今まで知らなかった各家庭での様子を互いに知ること、友達へ興味をもち、仲の良い友達以外との対話が増えているように感じる。対話が増えることで、既習の知識を使って、答えのない問いに向き合う姿勢も、様々な授業で見られていた。

しかし、アンケートの回収率は低く、肯定的な意見を書いた人が提出してくれたととらえることもできる。「紙で書くほうが、学習効果は高いのではないか。」「家庭内の様子が、勝手に学校で発信されたくない。」などの否定的な意見はなかったが、そう考える保護者がいても不思議ではないと考える。今回のような家庭との連携が、よい効果をもたらすということは、まだまだ決めつけることはできず、これからも継続的な実践研究が必要になるだろう。

7. 成果と課題

1人1台端末を利用した家庭との連携を行うことで、保護者は学校で行われていることが分かり、学校・児童・保護者の3者が連携して学級をつくっていくことができていくと考える。

一方、初めて1ヶ月半の取り組みであり、継続的に実践研究が必要であると考えられる。

8. 今後の展望

1人1台端末が配布されて、まだ1ヶ月半という短い期間での調査となった。まだ1クラスでしか行っておらず、継続的に様々な学級や学校、自治体などで調査を行っていく必要がある。

今回は概ねよい評価であったが、学年差もあれば、継続することへの弊害なども考えられる。学校の様子を積極的に公開できるクラスと、公開できないクラスの差なども生まれてきやすい。

「隣のクラスは公開しているのに、なぜうちのクラスは公開しないんだ。」ということにもなってくるだろう。また、それを懸念した管理職が、「横並び主義」「同調圧力」でやらない方に合わせることもある。それでは、これだけの器具を有効活用しておらず、なんとももったいない。

これからは予測不可能な時代である。だが、子どもたちが大人になった時に、ICT能力は必要不可欠であり、調べれば分かる知識よりも、誰も考えつかなかった発想のほうが大切にされることは、言うまでもない。

これまで、学校内で閉ざされていた教育が、学校と保護者、地域や企業、海外ともリアルでつながることができるようになった。1人1台端末を使いながら家庭との連携など今までの常識に縛られない取り組みを行っていくことで、令和の日本型学校教育の在り方を考えていきたい。

参考文献

文部科学省(2020) GIGAスクール構想実現について
庄子寛之(2020) with コロナ時代の授業の在り方 明治図書
庄子寛之 深見太一(2020) オンライン学級遊び 学陽書房